産業理工学部硬式野球部安全対策プラン（学外版）

1. 目的

本プランは、野球活動中における事故・けが等を防止し、すべての学生が安全に活動できる環境を確保することを目的とし、部として事故を未然に防止するために利用者に教育を施すものである

2. プランのねらい

- ・具体的な取り組みは、危険に対しての意識が低いと常に想定し、練習の開始前に確認、練習後には危険性を感じたことについて確認し、共通理解を確認する。
- ・事故防止には、施設・設備・用具等の事前の安全点検が必須であり、練習前に必ず確認のうえ安全でないものを事前に取り除き、練習までに修繕または取り換えなど危険個所を改善することで事故の未然防止を徹底する
- ・プランを策定しても実行しなければ意味がないため、安全点検する

3. 安全対策のポイント

①意識

- ・練習中の無駄な私語や携帯電話の使用、不注意をなくすためチーム全体で意識をもつ

② 球場全体

- ・野球部のネットに穴が空いており、ネットを突き抜け通行人にボールが当たる危険
⇒通学路側でのバッティングは禁止とし、ネット等は穴が空いていないか点検する
- ・球場回りのフェンスが上へ引っ張られ地面とフェンスの間からボールが抜ける危険
⇒フェンスと地面の隙間をなくすため、釘を打ち、練習前に安全確認の徹底
- ・球場回りのフェンスが上へ引っ張られ地面とフェンスの間でプレー中に足を挟む危険
⇒フェンスと地面の隙間をなくすため、釘を打ち、練習前に安全確認の徹底
- ・地面とフェンスの間からボールが抜け、通行人にボールが当たる危険
⇒フェンスと地面の隙間をなくすため、釘を打ち、練習前に安全確認の徹底と大学にお願いしてフェールボール、レフト注意の看板を設置、「危ない」の声とともにホイッスル徹底する

③ 個人

- ・練習または試合中、投手が投げたボールが頭に当たる危険
⇒練習または試合中は、必ずヘルメット着用を徹底する
- ・練習または試合中、投手が投げたボールが利き手の肘に当たる危険
⇒練習または試合中は、エルボーガードを装着し、死球等から守る
- ・練習または試合中、自分で打ったボールが足に当たる危険
⇒練習または試合中は、フットガードを装着し、自打球等から守る
- ・練習または試合中、投げたボールが他の選手へ当たる危険
⇒練習または試合中は、投げる方向の後ろへ人がいないか事前に確認できる場合は行う
- ・練習または試合中、他の選手から投げたボールが当たる危険
⇒練習または試合中は、必ず帽子を着用し、頭に直接ボールが当たるリスクから守る
- ・練習または試合中、イレギュラーバウンドでボールが顔に当たる危険
⇒練習または試合中は、必ず帽子を着用し、危険から身を守る

④ チーム

- ・バットスイング時に周りの他の選手にぶつかる危険
⇒バットを振る際の安全確認の徹底
- ・バッティング時、ピッチャーやボール拾いの選手に打球がぶつかる危険
⇒ボール拾いの選手は必ずバッティング練習を注視させる
- ・バッティング時、ファールゾーンで別の練習をしている選手に打球がぶつかる危険
⇒常に背中を向けず、ネット設置の角度を工夫し、必ず注視させる
- ・ノック中のイレギュラーバウンドが当たる危険
⇒グラウンド整備を徹底し、イレギュラーバウンドを減らす
- ・落ちていたボールへ踏み足を捻る危険
⇒ボールや用具などがグラウンド上に落ちていないか、足下を確認する
- ・フライ補給時、外野後方ネットやファールゾーンのネットに激突する危険
⇒選手同士の交錯やネット・フェンスへの衝突を避ける為、「危ない」の声を徹底する

⑤ ゲストやその他への安全対策

- ・少年野球チーム等へ球場を貸した際、約束ごとを守らずにけがをする危険
⇒施設使用の前に注意喚起・ルール・マナー施設の説明を行う。また指導者や監督者を常駐させて危険行動をしっかりと監視してもらう
- ・フェンス・ベンチなどの設備の破損によりけがをする危険
⇒事前にフェンス・ベンチ・用具などの設備の破損のチェックを行い事前説明する
- ・少年野球チーム等へ球場を貸す際、約束ごとを守らず使用する危険
⇒道具の整理整頓を徹底し、使用の前に注意喚起・説明を行う。ルールを守らなければ次回の使用は禁止とする

4. 不測の事態に備えた対応

- ・用具に関しては定期的に点検しているが破損がないかを確認、不備がある場合には使用を中止するなど、指導者が適切な判断をする必要がある。防球ネット等を活用するなどして、投球や打球の方向を制限する
- ・個人の用具も責任をもって手入れを行わせる
- ・日頃からしっかりとグラウンドを整備し、危険な個所がないように安全な練習環境を維持することが大切である
- ・打撃練習中の事故は重大事故になりやすいので、特に安全対策を徹底する必要がある
- ・練習開始前、練習終了後の点検を設定する
- ・指導者は、球場周辺の人の動きを常時確認する

5. 施設利用にあたって

- ・指導者が率先垂範指導を行うことで、意識を持ち行動することを促す
- ・守らないものはグラウンド内でのプレーを禁止にするなど、安全教育、意識を醸成する
- ・上記内容を遵守のうえ、利用いたします。

年 月 日

署名： _____